

文字摺通信

第 98 号

2025年10月15日

発行:文字摺歴史文化社

古典文学を影印本で読みませんか？

西村家蔵『おくのほそ道』影印本を買いました

『おくのほそ道』の原本は4つあると言われています。次の4つです。

◎野坡（やば）本（蕉門十哲の一人志太野坡が所持していた本。元禄時代に出された本に「又真蹟の書、門人野坡が許に有。草稿の書故、文章所々相違す。」とある。

◎曾良本：芭蕉に同行した曾良が所持していた本。芭蕉は自ら一旦『おくのほそ道』を清書したが、縦横無尽の訂正をしたため改めて誰かに清書させた。そのうちの一冊が曾良本であろうと推測される。

◎素龍本：芭蕉の弟子で書家の柏木素龍が清書した『おくのほそ道』

・柿衛本（柿衛文庫（柿衛文庫所有）と西村本（福井の篤農家西村孫兵衛所有））

西村本は、芭蕉が『おくのほそ道』を刊行するために柏木素龍に清書を依頼したものと思われる。西村本の最後に素龍の跋文があり、「元禄七年初夏」とある。芭蕉は、その題簽（だいせん：「表紙に書名を記して添付する紙片或いは布片。外題紙（げだいがみ）またはその題字をいう」『広辞苑』）をつけた完成間もない一冊を携えて、5月11日に帰省の途につき、10月12日大坂で亡くなった。51歳。元禄2年に奥の細道の旅をし、5年間推敲に推敲を重ねた俳諧紀行文の清書が完成したのです。

その西村本の影印本を今回購入することができました。影印本とは、底本を写真撮影をし、それを原版にしてオフセット印刷などの方法で印刷した「複製本」をいいます。

購入した西村本の影印本は、笠間書院が発行した『おくのほそ道 校註/影印』です。前半は活字の「おくのほそ道」に詳しい頭注と関係する「随行日記」・「俳諧書留」・「名勝備忘録」が入り、後半が影印本になっています。右の写真は西村本の題簽です。これは芭蕉の自筆とされています。以前にも『文字摺通信』で書きましたが、以前『おくのほそ道』は『奥の細道』と表記していました（今でも高校の教科書などでは『奥の細道』です）。しかし、芭蕉が書いた題簽に『おくのほそ道』とありますから、最近出版されている本はみな『おくのほそ道』です。

私はアマゾンでの購入をやめ（ネットでの購入をやめました。地元の本屋さんから注文して買うようにしています。）、西沢書店から注文・購入しました。本屋さんから、「ご注文の本、入りました」と電話があります。それも楽しみです。消費税込みで1,320円です。影印本はくずし字読みの勉強に最適です。

さて、もう一冊、影印本を持っています。野坡本です。岩波書店から発売

